

お釈迦様が入滅の際に残された足形を石に刻んだもの。国内最古のものは奈良薬師寺の仏足石で、天平勝宝5年（753）の造立である。この仏足石は、薬師寺のものと同様の古い様式で、文政二年（1819）に伊勢松坂来迎寺の妙有（みょうゆう 1781－1854）が建立した。釈迦の死後、長い間にわたって、その姿を人の形として表現することに忌避感があったため、足跡などが釈迦を象徴する礼拝の対象となっていた。仏足石はお釈迦様を本尊とする釈迦堂の近くに置かれている。これを礼拝すれば滅罪の功德が大きいとされる。